

カネミ油症被害者の健康追跡調査と台湾油症との比較調査研究

一 油症被害者は今 一 1. 日本女性・男性被害者健康実態調査 2. 台湾女性・男性被害者健康実態調査

2004年 6月20日

カネミ油症被害者支援センター
発表担当 坂下 栄

はじめに

日本での油症事件は1968年、それより10年遅れの1979年台湾油症事件が発生した。日本の経験が生かされず、同様なPCBによる加熱方式を取っていた。日本のカネミ倉庫または鐘淵化学の関与の有無を明らかにしたいと努めたが、未だ明確ではない。日本では15,000人前後が届け出て、1,871人が認定された。台湾で被害者が集中している恵明学校では、生徒、教師そして職員の子弟までがほぼ2,000人前後食し、盲目者・弱視者のための寄宿舎（クリスチャン経営で無料の学校）では約200人が3度の食事を摂り、甚大な被害を招いてしまった。当時、事務局長だった男性（被害者）は、安いと言う理由で自分が米ヌカ油を調達したことから、子どもたちにまで被害を招いたことに、未だに後悔の念にさいなまれていると言う。

事件当初の認定基準は、塩素痤瘡、顔面・手足の爪・口腔内の色素沈着、マイボーム腺分泌過多であった。台湾は当然日本の基準を参考にしたものだった。

カネミ油症被害者支援センターは、事件後約30数年経過した時点で、被害者がさまざまな疾病、一人で幾つもの病を抱えて苦しんでおられることを知り、現地自主検診、健康実態調査に着手した。

結果、男女とも正に全身病と称されるに相応しい疾病が明らかになった。そこで、同じようにPCB、ダイオキシン類を経口的に摂取した、台湾油症被害者についても調査することにした。

改めて日本男女の調査結果を、合わせて台湾調査結果も報告し、日本との比較検討を試みる。日台ともども依然調査継続中で、日本女性59名、男性40名、台湾男女合わせて12名について整理した。



五島・福江にて自主検診風景

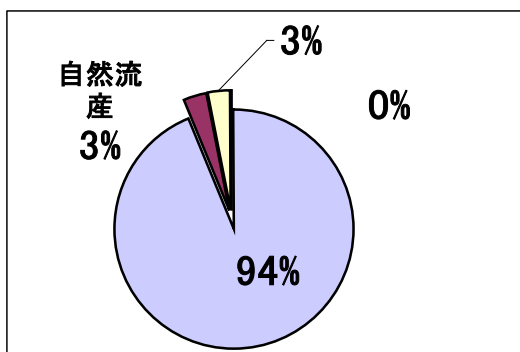
データを読む前に

- * データを理解しやすくする目的で、ビジュアル化・グラフ化しました。
- * これらのグラフは傾向を見るために数値化を試みましたが、数値そのものは絶対的なものではありません。
- * 理由は、協力して下さった被害者で、多くの病名を記入している人、殆ど書いていない人などさまざまでした。 記入し難い部分があったのでしょうか。筆記するには体の状況もあったのかもしれません。または、高年齢の方では、通常の人でも出るような症状と判断したため、書ききれなかったことも想像できます。
- * また、今後調査を増やす予定ですので、数値は変わっていきます。しかし、おしなべて傾向は変わらないと推測しています。
- * しかし、まとめるに当たって、今回多くのものは、記入疾患名総てを加算したものを母数にして、出現率を算出しましたので、数値についてはおおよそであることを、ご注意ください。

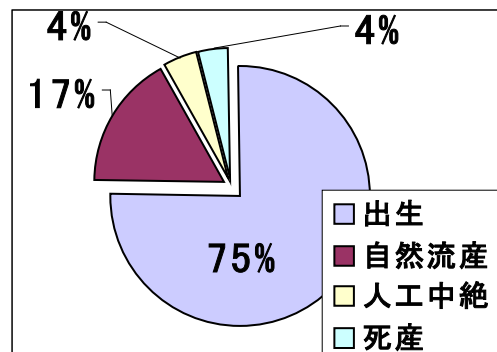
結果

I】女性被害者について

1. 出産異常



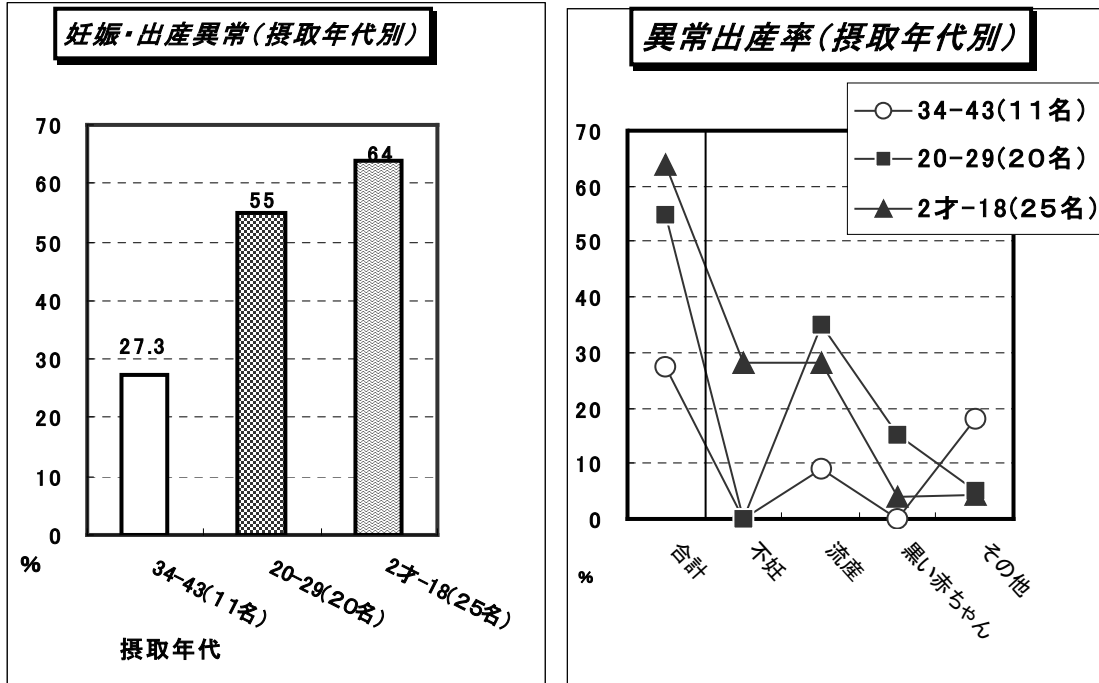
カネミオイル摂取前



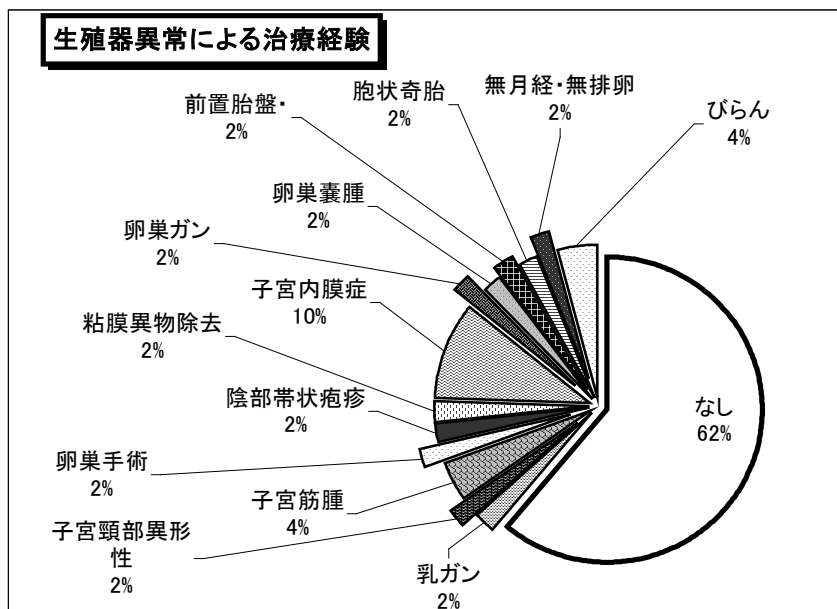
カネミオイル摂取後

2. ライスオイル摂取年代別出産異常

- * ライスオイルを摂取した年代を30才以上、20才から29才まで、19才以下の分けてみると、出産異常がくっきりとしてくる。
- * 20才から29才で摂取した母親8人中5人が黒い赤ちゃんを出産しているが、19才以下では殆どの方が不妊または流産(数回も)してしまって、黒い赤ちゃんは結婚している27人の母親から、1人のみであった。



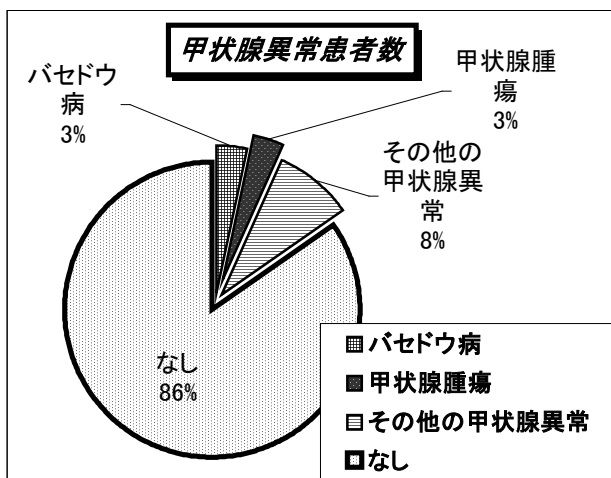
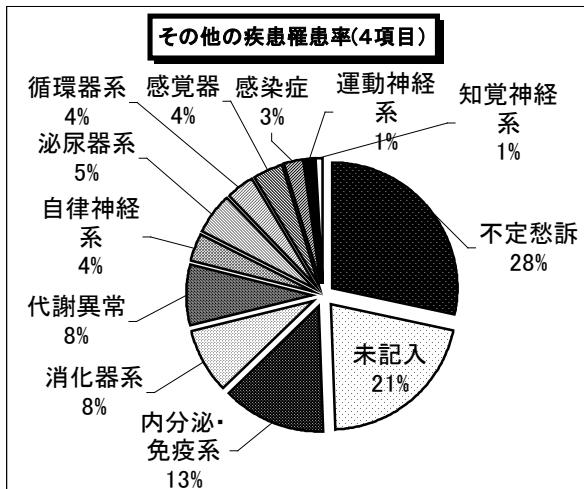
3. 生殖器異常による治療経験について



- * 国立ガンセンターより
子宮ガン 1998年 75才
40/10万人=0.04 %
乳ガン 1998年 40才
125/10万人=0.125 %
- * 卵巣ガン 2001年
死亡者中 3.5%

4. 生殖器以外の疾患

- * 生殖器関連以外の疾病について、各人4項目に絞り検討してみた。さまざまな疾病を抱えていること、全身の系統、器官に渡っていることが分かる。
- * 女性では、生殖器系疾患以外では、甲状腺異常が目立っていた。



II】男性被害者について

- * 男性も全身的に、全系統に渡る疾病に罹っている。

1. 顕著な疾病について

- * 不定愁訴は、65%の人が訴えている。
- * 女性に目立たない疾患に、骨折がある。
- * 摂取年代を20才以下に絞ると、50%の方が弱視や眼瞼手術などで、母親摂取後2年で出産した子は緑内障を抱えている。

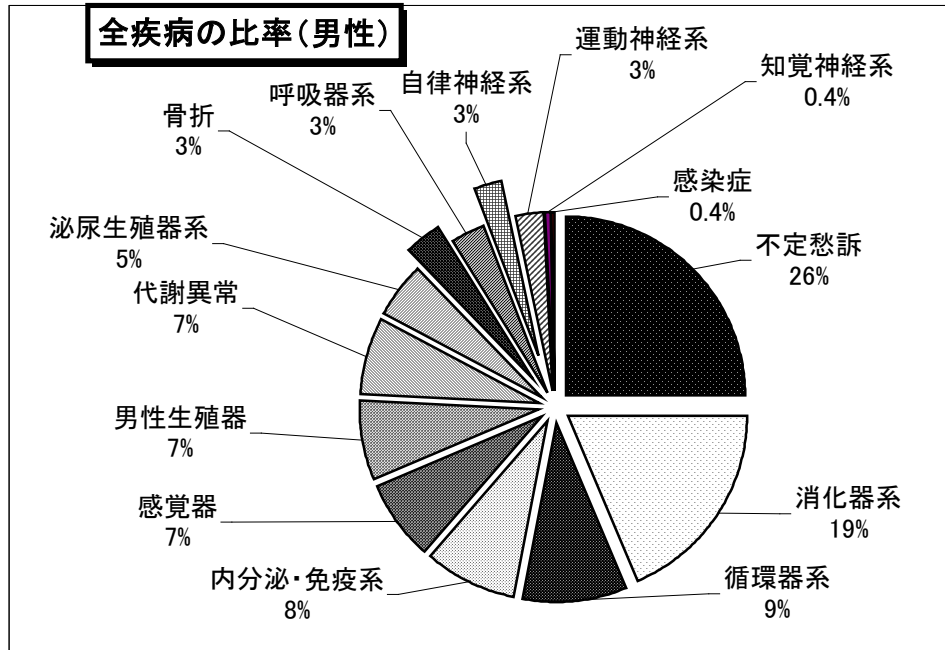
男性被害者の特記すべき疾患

生殖器ガン、異常	37.5	% (摂取1歳以上=37名中)
不定愁訴	65.0	% (全被害者40名中)
骨折	20.0	% (全被害者40名中)
脳梗塞	17.5	% (全被害者40名中、内1名は9才で摂取)
視力低下・異常	50.0	% (20才以下で摂取者8名中、内-2才摂取緑内障1名)
学習障害・多動症	1名	0才で被爆児(3名中1名)
陰茎(半分無形性)	1名	0才で被爆児(3名中1名)
尿路関係異常	2名	0～-2才で母体被爆児(3名中2名)

- * 生殖器ガンの内、前立腺ガンおよび前立腺肥大は35%になる。その他、膀胱ガンも含めた。
- * 国立がんセンターによる2001年死亡者中前立腺ガン死4.2% : 全生存男性から見るとさらに小数になるだろう。

2. 全身的な疾病について

* 男性も全身的な疾病に罹患している



Ⅲ】台湾被害者および日台比較

2回目の訪問で、台湾では初めて油症被害者、研究者、生協、環境団体との交流が実現した。



恵明学校での交流会

2004年 台湾油症**男性**被害者健康調査(名)

カネミ油症被害者支援センター作成

NO.	年齢 現在	認定	家族の 認定(名)	結婚 経験	子供 (名)(異常)	病名								
						頭痛	腰痛	めまい	麻痺	肝炎	全身 倦怠感	前立腺 摘出	前立腺 肥大	不整脈
1	68	○	妻、子女(5)	○	男 3 (-)	頭痛	腰痛	めまい	麻痺	肝炎	全身 倦怠感	前立腺 摘出	前立腺 肥大	不整脈
2	37	○	×	○	-	頭痛	腰痛	自律 神経	腎臓 弱い	眼科的	骨折	肝機能 弱	B型肝炎	-
3	33	○	×	×	×	頭痛	腰痛	胃弱	腎臓	瘻瘡で 手術 (2003年)	心臓 間接的 にある	不整脈	-	-
4	30	○	×	×	×	胃酸 過多	目やに	外耳炎	鼻過敏	瘻瘡 (臀部)	皮膚病	腸弱	-	-

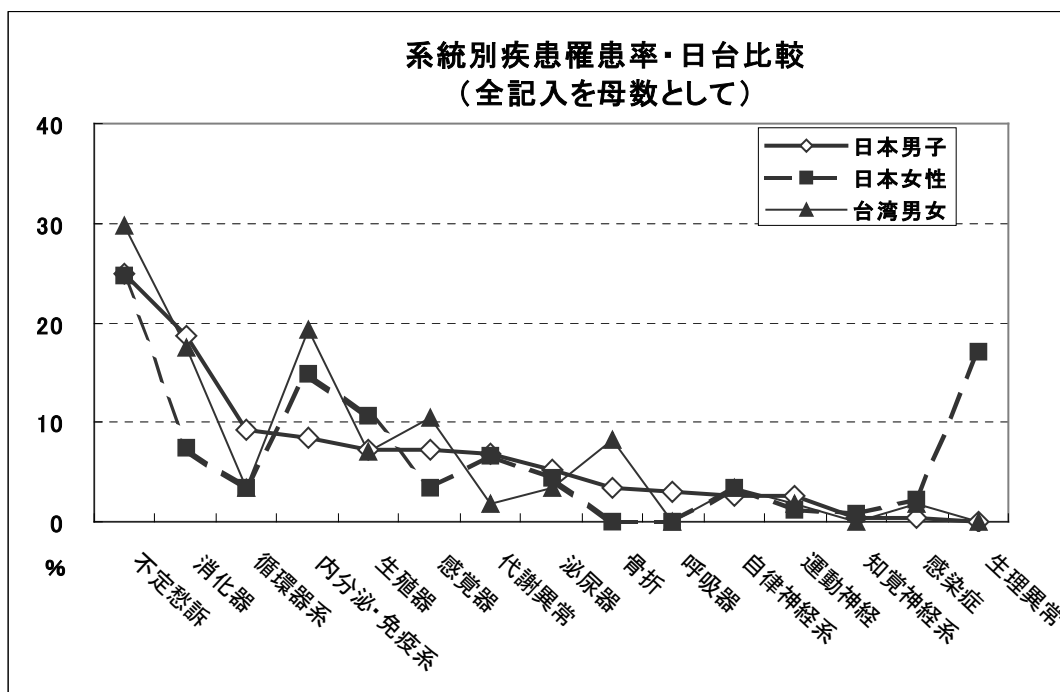
2003年 台湾油症女性被害者健康調査(名) カネミ油症被害者支援センター作成

NO.	年齢	摂取年齢	認定	家族の認定(計名)	子ども数	生理不順	生理痛	生理での症状	婦人科通院・治療・手術
1	70	45	○	×	-	×	×	腰痛	×
2	63	38	○	子(5)	3	×	-	頭痛	
3	47	23	○	子(2)	2(黒い赤ちゃん)	○	○	頭痛	○
4	47	22	○	×	未婚	○	○	-	○
5	41	16	○	-	未婚	-	-	-	-
6	37	12	○	×	未婚	○(月経過多)	○	○(月経過多)	○
7	37	12	○	-	未婚	×	○	めまい、頭痛、嘔吐	×
8	36	11	○	×	未婚	-	-	-	-

NO.	年齢	摂取年齢	認定	その他の疾患								
				胃病	胃炎を起こしやすい	薬を常用	ドライアイ	食物・空気に過敏				
1	70	45	○	胃病	胃炎を起こしやすい	薬を常用	ドライアイ	食物・空気に過敏				
2	63	38	○	偏頭痛	高血圧	目やに	陰部痒瘡					
3	47	23	○	甲状腺ガン(切除)	尿失禁							
4	47	22	○	甲状腺腫大	慢性中耳炎	皮膚病	時々偏頭痛	虚弱体質				
5	41	16	○	胃腸弱い・下痢	尿失禁	結膜炎	乾皮症	乾癬(多数)	爪が白く	湿疹		
6	37	12	○	子宮ガン(18才)	乳ガン(37才)	卵巣・子宮・乳房摘出	痒瘡	常時皮膚炎	爪が白く	目やに	外耳炎	
7	37	12	○	爪が白く	乾皮症	鼻過敏	頭痛	胃腸弱い				
8	36	11	○	外耳炎	中耳炎手術							

- * 婦人科通院・治療あり 3/8
- * 生理異常・月経過多、頭痛 (3/8)
- * 子宮ガン、乳ガン、(1/8) (摘出手術-37歳に摂取)
- * 甲状腺ガン+甲状腺肥大(2/8) = 20歳台に摂取
- * 黒い赤ちゃん(23才で摂取、2人の子ども共に、摂取後結婚・出産はこの1人のみ)
- * 医療相談をし易い施設、保険料免除、医師が中毒に対して、もっと具体的に關心を持って欲しい

系統別疾患罹患率の日台比較



- * 全記入を母数にして比率を算出した。
- * 日本男女、台湾で罹患率は非常に近似している。

結果から見えるもの：

- * ライスオイル摂取後数十年を経た今、全身病との表現が正当であることが明らかになりました。
- * 一人で幾つもの疾病を抱え込んでいます。
- * 先日も、現地に赴き被害者と対面し、問診すると自由記入スタイルのアンケート調査に現れていない症状が、次々と訴えられました。
- * 例えば不定愁訴としてまとめた内容の、頭痛、腰痛、神経症などは、総ての方が持つておられますが、アンケート結果では、それほど高く現れていません。また、不安で結婚しない方、子どもを生まない方、このような例が多数あります。
- * それであっても、病名・疾病の種類が多い順の傾向は殆ど変わらないと推測できます。
- * 男女とも、生殖器に関わるガンや疾病について、注視しなければなりません。
- * 上記のことは、日本でも、台湾でも同様でした。
- * 母親が摂取数年後に出産した子どもに出現している疾病は、深刻なものを感じさせます。
- * 被害者の方々のすこやかで、安心できる生活保証と同時に、今後広がるであろう大気汚染、海洋汚染、土壌汚染からの経口摂取に対する警鐘ともなっています。
- * また、さらに調査協力者を増やし、とりわけ台湾での協力を推し進め、データの深みを求めたいと考えます。
- * これらの調査結果が、認定基準の見直し、被害者の救済、医療保障、社会的・経済的生活保障につながることを念じます。
- * 将来、再度現地訪問・対面して聞き書きをすることが、一層データの正確度を増すものと思われ、それを課題にし、中間報告とさせていただきます。